

大学の教育目的とポリシー

教育目的

■看護学部

看護学部の教育上の目的は、「生命尊厳・人間尊重」の理念を基盤とする高い倫理性と豊かな人間性を培い、看護の専門的知識と技術を教授することにより、看護専門職として地域・国際社会に貢献することができる人材を育成することにある。（新潟青陵大学学則第3条第3項）

■福祉心理子ども学部

福祉心理子ども学部の教育上の目的は、生命尊重・人間尊重の理念に基づき、人々の生活の質の向上をはかるため、社会福祉学及び心理学の専門知識・技術の応用力、豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門職業人を養成することにある。（新潟青陵大学学則第3条第4項）

めざす人物像（ディプロマ・ポリシー）

■看護学部

- 1.幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理感を持ち、生命の尊厳を重んじた看護ができる。
- 2.看護を必要としている人の心に寄り添い、一人ひとりの意思と独自性を尊重できる。
- 3.専門的知識と技術を修得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身に付けている。
- 4.看護・医療の進歩と変化に適切に対応できる能力を身に付けている。
- 5.専門職者として主体的に学習する能力を身に付けている。
- 6.保健・医療・福祉・教育等関連領域と連携・協働し、地域の人々の健康課題に取り組むことができる。
- 7.多様な文化と相互の違いを理解し、国際的感覚を高め、人々の健康課題を考えることができる。

■福祉心理子ども学部 社会福祉学科

- 1.多様な人々の文化・歴史・価値観と社会のしくみを理解し、相互の違いを越えて協力しあうことができる。
- 2.社会の規範と倫理観を身につけ、市民としての社会的責任や役割を理解している。
- 3.人と社会に対する関心と自ら学ぶ意欲を持ち続け、社会に貢献できる。
- 4.多様な生活や人生のありようを社会環境との関係性から理解している。
- 5.生活課題を発見し、その解決に必要な情報を分析・考察できる。
- 6.生活課題の多様な解決方法を理解し、その方向性や過程を提示することができる。
- 7.専門職倫理の視点から、権利擁護の重要性を理解することができる。
- 8.コミュニケーション・スキルを活用し、他者と協調・協働していくことができる。
- 9.社会資源を把握し、それらを調整、開発、運営するための知識と技術を身につけている。

■福祉心理子ども学部 臨床心理学科

- 1.心理学と関連領域の学問的洞察力を身につけ、心のはたらきについて論理的に考えることができる。
- 2.社会における課題を発見し、心理学的な方法論を用いて目的に応じた必要な情報を適切に収集することができる。
- 3.収集した情報を心理学的観点から整理・分析し、結果を客観的に読み取り、かつ論理的に考察することができる。
- 4.臨床心理学の視点から、心の普遍性と個別性を理解し、人間と環境の相互作用について考察できる。
- 5.心理アセスメントの技法を理解し、人間の行動の意味とその個別性と多様性について考察できる。
- 6.人間の心理的特徴やその多様性を理解した上で、社会規範及び倫理に沿った判断ができる。
- 7.臨床心理学の知識に基づいて他者の立場を尊重したコミュニケーションをとることができる。
- 8.自身が所属する集団の関係性を見立て、メンバーの役割を調整し協同することができる。
- 9.臨床心理学及び関連領域の知識・技能を自ら学び続ける意欲を持ち、その専門性を社会で活かすことができる。

■福祉心理子ども学部 子ども発達学科

- 1.子どもの発達やそれを促す環境と働きかけに関する確かな知識・技能を身に付けている。
- 2.子どもの発達を巡る現代的課題の分析と追究を行うことができる。
- 3.自らの個性を育みながら、子どもの健全な発達を支えるために多様な人々と力を出し合うことができる。

学びの基本方針（カリキュラム・ポリシー）

■看護学部

- 1.カリキュラムには、全学共通科目として「基幹科目」「外国語教育と国際交流」「地域連携とボランティア」等を配置し、専門科目は「基礎専門科目」と「看護学」により構成する。加えて「教職関連科目」「他学部聴講科目」を準備する。
- 2.学ぶ構えとスキルを身につけるための「導入教育科目」を初年次に置き、教養科目と専門科目を関連して学べるように全学年に配置したうえで、学びの集大成として「看護研究」を配置する。
- 3.看護師・保健師・助産師・養護教諭など、自らの将来像に動機づけられた学習ができるよう、初年次からキャリア教育を開始したうえで、上位学年にそれらの専門性を追究する選択科目を配置する。
- 4.1年次・2年次は、看護の基礎力を養う科目を配置する。なかでも実践力育成を重視し、看護専門科目において領域ごとに実践論という科目を設ける。
- 5.3年次・4年次は、様々な健康状態にある人を看護する実習を配置する。また、地域包括ケアシステムに対応できるよう、病院外における看護活動も選択実習として準備する。
- 6.教育方法として、主体性とコミュニケーション能力を育成するために、授業内での協同学習、進路選択や看護研究に関する異学年交流、地域活動での協働学習といった、多様で互恵的な学びの機会を設ける。
- 7.評価は、学習目標の到達度を厳正に適用し、専門職として必要な能力を基準に絶対評価する。

■福祉心理子ども学部 社会福祉学科

1. 大学全体に関わるカリキュラムである「全学共通科目」、学部・学科の専門性に関わるカリキュラムである「専門科目」、学科独自の専門的な学びをより広く豊かにする「他学科聴講科目」のそれぞれを、4年間にわたり配置し、有機的に関連させたカリキュラムを提供する。
2. 基礎的な学力を補強するため、また専門的な分野を学ぶための基本的技能を習得するため、「全学共通科目」の中に「導入教育科目」を設け、初年次教育の充実に努める。また、学修成果の応用・集大成として「卒業研究」の充実を図るため、3年次より関連科目を配置する。
3. 学生が自身のキャリアを選択・判断できるようにするために、「全学共通科目」の中に「就業力育成科目」を設け、初年次からキャリア教育を開始する。
4. 学科専門科目には、社会福祉関連領域の広がりを実践的に理解するために、ソーシャルワークを中心に、精神保健・介護・保育関連科目を配置する。
5. 地域社会における生活支援と実践能力の向上を図るために、実習科目を中心としながら、地域や社会における多様な学習体験の充実を図る。
6. 個々の学生の学習達成度や特性に合わせた適切な教育指導を行なうために、少人数のグループ単位での授業を多く取り入れ、学生と教員との双方向的なコミュニケーションを図る。また、学生の問題解決能力を養うため、能動的学修の充実を図る。
7. 評価は、学習目標の到達度を厳正に適用し、多様な評価の視点を取り入れることにより、学修成果の適正な評価の充実を図る。

■福祉心理子ども学部 臨床心理学科

1. 大学全体に関わるカリキュラムである「全学共通科目」、学部・学科の専門性に関わるカリキュラムである「専門科目」、学科独自の専門的な学びをより広く豊かにする「他学科聴講科目」のそれぞれを、4年間にわたり配置することによって有機的に関連させたカリキュラムを提供する。
2. 基礎的な学力を補強するため、また専門的な分野を学ぶための基本的技能を習得するための「導入教育科目」を初年次に設ける。さらに専門科目の応用・集大成でもある4年次の「卒業研究」に向け、初年次より毎年ゼミナール形式の科目を配置する。
3. コミュニティへの参与・調整を図る知識や技能を修得し、また自身のキャリアデザインを主体的に選択・判断できるように、資格関連科目や就業力育成科目を配置する。
4. 1年次・2年次は、人間理解のための論理的思考と観察力を身につけられるよう、臨床心理学とその方法論についての広範囲で体系的な学びができるように科目を配置する。
5. 3年次・4年次は、人間の行動・生活・文化の背景にある心の普遍性と個別性について深く理解し、支援についても考察できるよう、臨床心理学と関連領域についての科目を配置する。
6. 個々の学生の学習達成度や特性に合わせた適切な教育指導を行なうために、少人数のグループ単位での授業を多く取り入れ、学生と教員との双方向的なコミュニケーションを図る。また、学生が主体的に問題を発見しその解を見出す力を養うため、豊富な文献・事例を通じた能動的学修方法を多く取り入れる。
7. 評価は、学習目標の到達度を厳正に適用し、多様な評価の視点を取り入れることにより、学修成果の適正な評価の充実を図る。

■福祉心理子ども学部 子ども発達学科

1. 専門の学びを支える豊かな教養を身に付けるとともに、多様な価値観を理解するための科目を配置する。
2. 子どもの発達過程を理解し、最善の発達を促すための環境と働きかけに関する基礎的な知識と倫理を身に付ける科目を配置する。
3. 子どもの発達にあわせた教育・保育の内容・方法と、これと密接に関連する子ども家庭支援の方法を学ぶ科目を配置する。
4. 子どもの発達を巡る課題を発見・分析し、解決策を見出す力を身に付ける科目を配置する。
5. 主体的に学び続けるとともに、多様な人々の価値を認め、協働する態度と力を身に付ける科目を配置する。
6. 評価は、学修目標の到達度を厳正に適用し、多様な評価の視点を取り入れることにより、学修成果の適正な評価の充実を図る。

求める人物像（アドミッション・ポリシー）

■看護学部

1. 看護職として人々の健康と暮らしを支えることを志す人。
2. 入学後の学修に必要な基礎学力のある人。
3. 筋道をたてて自分の考えを述べる事が出来る人。
4. 自ら力を発揮しながら様々な人と協力することが出来る人。

■福祉心理子ども学部 社会福祉学科

1. 幅広くものごとに関心を持ち、基礎的な知識を身につけていて、人と社会の多様なあり方を興味深く学んでいける人。
2. ものごとをいろいろな面から捉え、順序立てて考えようとする姿勢を身につけていて、社会の課題解決に取り組む方法を意欲的に学んでいける人。
3. 一人ひとりの違いを大切にすると支えあいの気持ちを持ち、多くの人たちと力を出しあう方法を積極的に学んでいける人。

■福祉心理子ども学部 臨床心理学科

1. ものごとを心理学的に探求するために必要な、情報を読み取る力やそれを整理する力を育てている人。
2. 人間の造りあげてきたものに表れる、人の営みを考察するために、文献を読み解く基礎的な力を備えている人。
3. 人間が生活する社会・自然がもつ仕組みや、その影響について理解するために必要な論理的な思考力を育てている人。
4. 人と人のかかわりの中で、その関係を調整したり、援助したりすることの基礎として、自分と他者とのかかわりに関心を持つ人。

■ 福祉心理子ども学部 子ども発達学科

1. 幅広くものごとに関心を持ち、基礎的な知識を身につけていて、子どもの発達や子どもを育む環境について興味深く学んでいける人。
2. ものごとを様々な面から捉え、順序立てて考えようとする姿勢を身につけており、子どもの育ちをめぐる課題解決に取り組む方法を意欲的に学んでいける人。
3. 子どもが持つ可能性や「伸びようとする芽」を大切にする心を持ち、その子らしさを伸ばす関わり方について、積極的に学んでいける人。